

私たちは、地域住民の心と身体の健康をささえる病院として
「こころのふれあい」を大切に、安心と満足、信頼を得られる医療・保健・福祉を推進します。

八幡青樹会病院 季刊広報紙

平成18年7月1日 発行
発行責任者 広報委員会
地域連携室

青葉の風

第9号

連絡先 医療社会事業課 0748-33-7104

きらきらと照りつける陽射しが夏本番を思わせるようになりました。

八幡青樹会病院の季刊広報誌「青葉の風」第9号をお届けいたします。

～ 八幡青樹会病院ニュース ～

研修医の先生2名をお迎えしました。

副院長 山根 茂樹

当院では昨年より臨床研修の協力病院として近江八幡市民病院より研修医を受け入れています。今年も6月、7月にそれぞれ2名の先生が精神科研修に来られますので、精神科医療の現場の隅々まで経験を積み、将来に役立てていただきたいと思っております。(その中から精神科志望の先生が育ってくれたら嬉しい事です。) 患者様、御家族様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

「無事故・無違反100日運動」表彰

総務 土岐 亜矢子

6月16日に行われました近江八幡地区安全運転者管理者協会の総会の場で、当院は平成17年度の無事故・無違反100日運動の優良事業所として表彰されました。当院は若年ドライバーの交通安全組織であるY・T・S(ヤング・トラフィック・セーフティー)など、地域の交通安全活動に積極的に参加しております。今後も職員の交通安全、運転マナー向上の啓発に取り組んでいきます。



防犯講習会を開催しました。

舎監 伊藤 實

本年4月に就職した寮生を中心に、今年も5月29日に防犯講習会を開催いたしました。近江八幡警察署生活安全課から現職の警察官3名に御来院いただき、最近の管内で起こっている犯罪の傾向や、ストーカーから身を守るための方法についてお話いただきました。最後に、万一の際に暴漢から身を守る実技練習があり、警察官の動きに合わせ、全員真剣な表情で護身術を体得していました。この様子は地方紙にも取り上げられ、当院の防犯意識を地域にアピールすることができました。

外来診療時間のお知らせ(平成18年6月1日変更)

	月	火	水	木	金	土
1 診	由利	山根	石倉	由利	石倉	山根
2 診	山本	山本	齋藤	山本	濱名	石倉
3 診	濱名	大戸	廣田	青木	青木	廣田
4 診						大戸
内科		西村	小林	出口	武内	
循環器	浜本					芦原

初診受付 : 午前8時30分 ~ 午前10時30分
再来受付 : 午前8時30分 ~ 午前11時30分
診療日 : 月曜日~土曜日

(土曜日は平常どおり診療しております。)

休診 : 日曜 祝祭日年末年始(12/30~1/3)

夏季(8/15) 創立記念日(7/16)

重度認知症患者デイケア(高齢者デイケア)

の運営終了について

関係者の皆様は既にお知らせしておりますが、平成14年10月から開始、運営しておりました重度認知症患者デイケアを、諸般の事情により本年6月30日をもって終了させていただきます。ご利用をいただいております利用者の皆様につきましては、ご担当のケアマネージャー様を通じ介護保険サービスに移行していただいております。今後も認知症患者様に対するご相談などは、外来診療等を通じ継続しておりますのでお気軽にお尋ねください。長らくのご利用、運営へのご協力ありがとうございました。

~~~~~ **精神保健福祉にまつわる Q&A** ~~~~~

**質問** : Q . 障害年金とはどのようなものでしょうか？また、もらえるための条件はなんですか？

A . 障害年金とは、病気やケガなどによって障害を持った時に、その人の生活費を部分的に補うお金（年金）として支給されるものです。精神障害の場合も、症状が落ち着き安定していても、日常生活や仕事をする上で支障があり、普通に暮らしていくことが困難な状態のとき、障害年金を受けることができます。条件としては、初診日に保険（国民年金または厚生年金または共済年金）に加入していること 初診日前の被保険者期間のうち、保険料を納めた期間・保険料を免除された期間が3分の2以上であるか、または直近1年間に保険料の滞納がないこと 障害認定日（初診日から1年6ヶ月を経過した日）に、障害の状態が年金制度（法）に定められた精神障害の状態（1級、2級、3級）に当てはまる必要があります。（障害年金交付の申請ができるほどの状態であるかどうかは、主治医にお尋ねください。）ただし、保険料を納めていなくても、20歳前に初診があれば受給資格があります。窓口は、障害基礎年金のみの方（国民年金の方）は、市役所・町村役場の国民年金課に、障害厚生年金の方は最寄りの社会保険事務所に、障害共済年金の方は各種共済組合になります。詳しくは市役所・町村役場の国民年金課、社会保険事務所、地域の関係者（作業所の職員や家族会等）、保健所の保健師、病院のソーシャルワーカー等にご相談ください。

~~~~~ **こころのエッセイ** . . . . **底力**

八幡青樹会病院 医局長 廣田 卓也

その日、彼女は私の前でこう言った。「私、抜けたんです。」彼女は、いつも悲しみ、恨み、怒っていた。「私の魂は死にました。」と語っていた。彼女は絵を描くことが好きな少女であったようだ。決して目立つことはなかったが会社勤めも経験し、それなりに社会生活を送っていたらしい。そんな彼女の悩みの種は、独善的で一家に君臨する父親と、絶えず不安でただ盲従するばかりの母親だった。そんな家庭に嫌気がさした彼女は、逃げ込むように母親のもたらした縁談にとびついた。しかし、両親から逃れるために結婚した相手は、あれこれ細かく彼女に指示し、彼女に干渉し、彼女を支配し、そのことを「愛情」だと言い、「頼りない妻を教育しているのだ」と言う、まるで父親の再来のような男だった。逃げ場を失った彼女は母親の勧めるままに、母親が入信していた新興宗教に入信した。ところが、そこでも教祖様は善意や愛情という名のもとに教義という道具を使って彼女を支配した。こうして彼女の「魂は死にました。」彼女はひたすら肉体の消滅を望み、私の所へやってきた。私には何も出来ず、どうする方策もなかった。ただ定期的に会い、会う度に「肉体を消すことには力は貸せないが、魂を生き返らせることは応援する」と言っていた。何年もそうしていた。何も変わらなかった。でも彼女はある日突然言った。「私、宗教を抜けたんです。」「私、自分のやりたいことができます。」「絵を描きます。」そもそも彼女は病気ではなかった。親から、夫から、教祖様から、「愛情」という甘い言葉でカムフラージュされた支配を受け続け、彼女の自我は健全な発達を許されなかった。そんな中から彼女の魂を救ったのは、彼女の中に眠っていた彼女自身の力だった。彼女の底力だった。

~~~~~ **あとがき**



病院の中庭に藤棚があります。暑い日に藤棚の日陰でたたずめるようにと病院建築の際に職員から出された案で作られたものです。このあいだ、藤棚の枝を払っていたら、いつの間にかヤマバトが巣をつくり、枝を払う音におどろいたのか、バタバタと飛び去って行きました。棚にのぼり、そっと巣を見るとききれいな卵が2つあったので、しばらくしてこっそりと藤棚に戻ってみると、さっきのヤマバトがじっと卵をあたためていました。とてもきれいなヤマバトです。山里に行かないと見られないヤマバトが病院の中庭に巣を造ってくれたなんて、このあたりでもまだまだ豊かな自然が残っていることに嬉しくなりました。

~~~~~ **皆さまからのご意見、投稿など募集しております。詳しくは広報委員会までお尋ねください。**

八幡青樹会病院 広報委員会(地域連携室内) 電話 0748-33-7104 FAX 0748-32-7725